

1 自己評価及び外部評価結果(1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900082		
法人名	NPO法人ケアセンターいこい		
事業所名	高齢者グループホーム いこいの華		
所在地	一関市花泉町花泉字地平21-8		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900082&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号
訪問調査日	平成22年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東北本線の花泉駅から徒歩7分で花泉駅が見え温暖な気候にて四季折々の花が眺められて穏やかに生活出来る場所に有ります。本人の望む事を第一に考えて利用者に接しています。日々の生活が楽しく本人の状態に合わせたケアを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後間もない事業所ではあるが、自己評価及び外部評価への取組みも積極的に実施し、意欲的に取り組んでいることがわかる。建物構造では、全居室にエアコン、スプリンクラーが設置されている。また、夜勤専用職員の配置、警備保障会社との契約により、手厚い安全確保が図られている。運営推進会議の充実、地域との付き合い、災害時の対応、職員の研修充実など課題もあるが、ホーム独自の目標を立て、食事、入浴、外出など、利用者中心のケアを目指す取組みを行なっている。また、8月中旬に施設内にコミュニティセンターを新築予定であり、今後地域における介護の拠点として、様々な活用が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、ケア理念は施設内に掲示している。1/月の職員会議(勉強会)含むで確認し共有しながら日々の介護指針にしている。	法人の運営理念に加え、事業所独自の目標をつくり、管理者と職員が共通の指針として日々努力しているが、開所後の日が浅く、具体的実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ、浸透はしていないが推進会議等にて地域に対してPRしているところです。	着工時、地区公民館で住民説明会を開き、施設のPRを行ったり、7月下旬花泉支所管内の民生委員多数の施設研修見学、盆前にはサマーフェスタの縮小版の企画などを通じ、地域への交流を図っているが、より踏み込んだものにするにはこれからである。	8月中旬に、ホームに併設して建設中のコミュニティセンターが完成予定であり、今後、地域における介護の拠点として、様々な活用と取組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所して間もない為、推進会議等にて浸透するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度で、行政、地域の区長、民生委員、利用者家族、管理者、法人職員等にて構成されている。自由に討議して頂き議事録は職員全員で回覧して情報の共有をしている。	2回開催したが、メンバーの顔合わせ、施設、行事の紹介、避難訓練等の報告が主で、会議の内容などは職員に回覧されているが、サービスの向上に活かす取り組みまでは行なわれていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域行政組合の介護相談員による話し合いが行われている。また、推進会議等に参加頂き指導、助言を受けている。	開所当初の介護相談員による認定調査時には、利用者、事業者と話し合いが持たれている。また、利用者個々の状態については、花泉支所と連携、更に、月末には花泉の民生委員、児童委員が多数視察研修に訪れるなど連携が進められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束に付いて理解して頂き本人の行動を否定せず共に行動し安全、安心に努めている。また、家族には入所時にその旨を説明もしている。	身体拘束は一切行われていない。外出についても「駄目」などの制止の言葉は使わず、一緒に出かけるようにしている。施錠は夜の9時から翌朝の6時までとし、異常があれば警備会社からも連絡があり、夜間は夜勤職員と二重チェック体制がとられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議等を通して情報の提供をしている。また、虐待についての勉強会も実施し日々のケアに努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入所している利用者には特には問題ないが今後備えて制度の仕組みについて職員全員で研修等を行って行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族に対して契約時に十分に説明を行いりかい、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とコミュニケーションをとる事で個々の思いが気軽に引き出せるような環境作りをしている。また、玄関にご意見箱(苦情)を含むで設置し情報の収集を行っている。	運営推進会議には、利用者・家族は交代で出席、行事を通じ自然に話が出るよう工夫し、民生委員・児童委員の見学研修の受け入れもしている。新築間近なコミュニティセンターの活用等が考えられている。また、家族会結成も今後の課題としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて話された事項については各事業所が集まるリーダー会議にて協議される。	リーダー会議には、管理者と両棟から各1名が出席し、問題(課題)があればリーダーから管理者に相談し、解決している。職員の大半が未経験の地元採用者で、仕事を覚えること、職場の環境に慣れることに頑張っている。意見等はまだまだ聞かれないが、施設長は職員が話しやすいよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する意識付けを行い職員が働く意欲が向上するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加している。参加した職員が職員会議等にて説明を行い情報の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例会、ブロック別定例会に参加し情報交換、職員研修等を行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に本人の思い等を確認している。また、職員には情報を提供して援助がなされ本人の不安が解消されるようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に調査を行い家族の思い等を聴き対応し過去、現在の経過を確認し対応するよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のお思いを確認し何が必要か見極めながら対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅の延長上にて自分で出来る事(掃除、調理補助、衣類たたみ、畑仕事)を通じ信頼関係が築けるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のこれまでの生活歴を家族と共有し本人が安心して生活出来るようにし信頼関係が築けるように心掛けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚等の面会があるので関わりを継続出来るように対応している。また、希望した場合は職員が(知人、故郷)に出かけている。	知人・故郷など、馴染みの人や場所を本人が希望した(他の施設にいる知人に週1回程度会いに行きたい)場合には、職員が同行し、日が重ならないよう調整するなどして支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活空間の居間にて皆で出来る事、やりたい事が出来る場作りをして利用者が孤立せず関わりあえるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所等されてもその後の状況等についても把握し場合によっては相談等にものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向を、希望を把握したい上で生活して頂いている。出来る事と気付きを大切に状態に変化あればケース検討会を開催して情報の共有をしている。	職員は利用者の状態が日々変化する中で、いろいろ反省しながら、やり甲斐を持ってその人らしく暮らしていけるよう、思いや意向の把握に努め、信頼関係構築にも配慮しつつ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査、入所時の聞き取り、事業所からの情報等にて確認を行い情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者、一人、一人の状態(バイタル、食事量、排泄)を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等にて状態に合わせてアセスメント等を行いプランに反映出来るようにしている。	利用者は外部評価時点で13名と増加したが、介護計画を職員共通のものとして理解することに努めている。色々な出来事が起こる中で、日々の状態の変化については、朝夕の申し送り事項、職員の気づき、職員会議等で検討され適切に対応されている。	「少しでも歩けるようにして欲しい」との家族の要望を活かした取組み、意欲を持った職員の資格取得の奨励・援助、更に次年度に向け新人職員の研修体制づくり等を通じ、それらの取り組みの成果が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録として記入して必要なものは申し送りにて情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に応じて施設間で必要に応じて連携をとっている。(法人全体で対応)		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に情報を推進会議等にて発信して連携が深められるように施設の中にコミュニティセンターを新築する。(8月半ばで新築する予定)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意向を確認してかかりつけ医には定期的に職員が同行受診をしている。	主治医が一関の神経内科等(診療科目が花泉にない方)の場合には、通院は従来通りとし、花泉の内科には3名ほど移られた。月1回の定期健診を含み病院へは事業所の職員が送迎し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院を施設としてお願いしている協力頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の世話、面会、家族への報告、退院に向けての情報交換、カンファレンス等も医療相談員、退院担当者で行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としての方針を入所時から伝え本人、家族の望むことであれば終末期の援助まで行う事を本人、家族に伝えている。	重度化した場合、終末期を含めそのあり方について、利用開始時に話し合いを持ち、意向等の確認はしているが、看取りの指針とか契約書など、明文化されたものは作られていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル、救急救命、AEDの講習会等を行い対応出来るように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル、避難訓練の実施と避難路の確保。	4月に日勤帯を想定し、消防署による総合訓練(避難訓練を含む)を実施している。災害時のマニュアル、緊急連絡網が整備されると共に、避難経路等も確保されている。	火災や建物への侵入等は、消防署、警備保障会社へ自動的に通報され、緊急連絡網も作られているが、利用者の安全確保のため、災害時に地域の協力が得られるよう、早い段階での取組みが期待される。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに合わせた言葉ががけを行い関係書類は利用者の見えない場所に保管し、契約書に守秘義務の記述があり個人情報の取り扱いに注意している。	職員は花泉から採用されているので、地元の言葉でごく自然に声かけを行なうなど、利用者の訴えや気持ちをすばやく察知し、適切な対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションを通じて思いを聞いたり話せる環境作りに取り組んでいる。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人の運営理念、ケア理念に基づき生活出来るように取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する理美容院への同行。衣類についてもコーディネートを楽しんでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて対応し献立についても利用者の希望を取り入れている。買い物も利用者を同行し嗜好が異なる場合は代替え品を提供し食事を楽しむ為の支援を行っている。	嚥下力が衰えた方には刻み食、又はトロミを加えるなど、その人の状況に合わせた支援が行なわれており、中には誤嚥に対応して肺炎予防の注射を受けている方もみられた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録を行って個々の利用者の状態を把握した上で提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人の有する能力(声かけ)に合わせて対応している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄間隔の確認を行い声かけにて対応している。(本人の状態に合わせた援助)	日中は2時間おきに排泄の有無の確認と誘導を行い、夜間はA・B両棟の男性宿直員2名が連携し、交代でほぼ3時間おきに日中同様の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面での対応と朝の乳酸菌飲料、定期的な水分補給をと個別の整腸剤、下剤での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の制限はないのでその日の本人の状態に合わせて対応している。また、訴えがあれば希望に添って対応している。	基本的には入浴の制限はないが、入浴は昼間のみの対応とし、あまり入浴を希望しない方でも、何気ない一言の助言で入る場合もあり、本人の気持ちを損なわない言葉がけを工夫しながら、少なくとも週2回程度の入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えを尊重し状態に応じて心身のストレス軽減に努め対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を把握して服薬まで職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のしたい事、畑仕事、洗濯物たたみ、野菜の皮むき等を能力に応じて行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れて自由に出かけられるように支援している。(買い物、散歩、ドライブ)	ドライブ等の外出支援については、毛越寺、古戦場、刈生沢の八重桜などの観光名所を中心に、利用者の希望を取り入れる等して実施されている。また、散歩、買物、外食(回転寿司など)等の支援も行われている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の有する能力に応じてここに管理している方とホームにて管理(預かり個別管理)し本人希望に応じて使用出来る仕組みとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話が出来るように対応している。手紙等についても代読、代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース(食堂兼居間)にて生活する事が多く台所の匂い、音、内外の風景が確認出来るようにし、家庭的な雰囲気の中で生活出来るように取り組んでいる。	2棟は居間兼食堂部分で繋がっており、互いに行き来が可能である。また、畳四畳分の小上がり、ソファにテレビ、個人用の予備椅子、神棚、時計が2ヶ所あり、さらに、洗面所の鏡の1つは車椅子専用のものが備え付けられるなど、他の共用部分を含め、使いやすさと居心地の良い生活空間が作られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファ、椅子があり一人ひとりが好きな場所で利用者同士が会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく個々に使い慣れたソファ等を持参し自分なりに居心地の良い環境を作って過ごしている。	居室はエアコン、ナースコール付きとなっている。持ち込み品は少なく、シンプルであった。ベット、テーブル、椅子、押入、テーブルが備え付けで、中にはテレビ、ソファ、カセットレコーダーなどが持ち込まれている部屋もあり、快適さと安全性に配慮した造りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリー構造にて廊下も手すりも必要に応じて設置、広くとって機能向上に向けた取り組みをしている。		